

令和5年度 公民 科
教科名等

| 校内科目名 | 学習指導要領の科目名 | 対象学年 | 対象クラス | | | | | | 単位数 | 分類 | 予定時数 |
|-------|------------|------|-------|---|---|---|---|---|-----|-----|-------|
| 倫理 | 倫理 | 3 | A | B | C | D | E | F | 2 | 必履修 | 70 時間 |

教科担当・教材等

| | |
|--------|--|
| 授業担当者名 | |
| 授業形態 | 講義・グループワーク・演習・鑑賞 |
| 教科書 | 高等学校 改訂版 倫理(第一学習社) |
| 使用教材等 | テオリア最新倫理資料集 新版(第一学習社) 学習事項の整理と問題 改訂版 倫理ノート(第一学習社) |

科目の目標・内容等

| | |
|-----------|--|
| 学習目標 | 自己形成に伴う諸課題について理解を深め、人間としてのより良い生き方について先人の思索を手掛かりに考察する。 |
| 学習における留意点 | 地歴等で学んだ知識や同時に学習する政経の知識が理解を助ける材料となるので常に参照すること。 |
| 予習・復習 | 予習は授業前に教科書を読んでおく。復習は、授業時に取ったノートを中心に教科書・資料集を読み返して理解を深め、「倫理ノート」を使って記憶の定着を図る。 |
| 評価方法 | 定期考査・平常点(小テスト・レポート・授業の取組等)・提出課題 |

年間授業計画

| 学期 | 単元・授業内容 | 学習の重点 | 評価の観点 |
|----|--|--|---|
| 1 | ○青年期の課題と自己形成 ○人間としての自覚 ・ギリシャの思想 ・キリスト教 ・イスラム教 ・仏教・儒教 ○国際社会に生きる日本人としての自覚 ・日本仏教 ・日本儒教の展開 ・町人意識と庶民思想 | ・人生における青年期の位置づけを理解し、この時期の最大の課題であるアイデンティティの確立について理解する。 ・源流思想にさかのぼり、人間としての在り方、生き方を考える手がかりを得る。 ・日本の風土と伝統の中に入ってきた仏教や、儒教がどのように受容され発展したかを理解する。 | 青年期の課題と源流となる思想や宗教の解明に関心を持ち、自分自身の生き方につながる問題として深く理解しようとする意欲をもって取り組み、定期考査等でその成果を示したか。課題や授業に主体的に取り組んだか。 |
| 2 | ○現代に生きる人間の倫理 ・人間の尊厳・近代の科学革命と自然観 ・自由で平等な社会の実現 ・人間性の回復と主体性の確立 ○国際社会に生きる日本人としての自覚 ・西洋思想との出会い | ・近代以降の西洋思想がどのように発展したかをたどり、人間の生き方と社会にどのような影響をもたらしたかを理解する。 ・幕末からの西洋思想との出会いと、その後の独自の発展を何人かの思想家を通じて理解する。 | 近代の思想と現代思想の解明に関心を持ち、自分自身の生き方につながる問題として深く理解しようとする意欲をもって取り組み、定期考査等でその成果を示したか。課題や授業に主体的に取り組んだか。 |
| 3 | ○現代の諸課題と倫理 ・生命の問題と倫理課題 | 医学の発展によって登場してきた生命の倫理に関する問題を自分自身に関わる問題として理解する。 | ・生命倫理の課題に関心をいだき、自分自身の生き方につながる問題として取り組んだか。 |

※生徒の理解度や担当者の工夫により進度が変わるため、必ずしも計画どおりに展開するものではありません。